

## 大会宣言

**動きはじめた情勢を確かなものに！**

**父母・国民との共同で、教育政策を転換させ、憲法をいかす教育と社会をつくらう！**

**そのためにも、全教を強く大きくしよう！**

戦後初めて日本国民が自らの意思で長く続いてきた自民党政権を倒し、新しい政治への探究を始めた激動の情勢のもと、全教は2月13日・14日、第27回定期大会を東京で開催しました。大会は、国際社会でも日本でも、動き始めた平和と人権・民主主義の実現に向かう変化を強く確かなものにし、私たちの要求を実現するために憲法をいかす教育と社会への転換をめざす運動方針を確立しました。

1. 新しい激動の情勢とその下での運動について多くの代議員が発言しました。情勢をさらに前向きに動かすために、共同と運動の力を強めようと意気高い討論が展開されました。

討論では、20本も虫歯があっても歯医者に行けない子どもなどの貧困の実態、各地の教育費ホットラインに寄せられた自己破産や失業による教育費負担の困難、各地の高校生の就職内定率の低さなどの実態が出されました。この現状を広く社会に明らかにし改善のとりくみをすすめる教職員の姿が、マスコミにも取り上げられ、経済団体や自治体への要請や、民間労働組合との共同などが大きく広がっている様子も語られました。

動きはじめた変化を、「構造改革」路線からの転換、憲法と子どもの権利条約を生かす教育の実現につなげる上で、7月の参議院選挙と、それにつながる京都府知事選挙のもつ重要な意義や、政治を変えるとりくみへの決意が語られ確かな政治的变化をつくりだす思いを共有しあいました。

2. 世界では核兵器廃絶をめぐる新たな前進が生まれています。1月の名護市長選挙では、辺野古への新基地建設に反対する稲嶺進さんが当選しました。同時に、これらを阻もうとする動きも見過ごせません。安保改定50年の節目の年、平和で国民が主権者として尊重される日本をつくる重要な時期を迎えています。

討論では、平和や安保を考える教育実践や、NPT再検討会議に向けた代表派遣、核兵器廃絶署名などの核兵器のない世界に向けた力強いとりくみが出されました。対話による平和な世界への流れを強めるとりくみをいっそうすすめましょう。

3. 国・公立高校授業料無償化の実現をはじめ、教育政策をめぐっていくつかの変化が生まれ始めています。この変化を、競争と格差づくり、上意下達・管理統制によってすすめられてきた日本の教育政策の根本的転換につなげることができるかどうかは、運動と世論

にかかっています。

討論では、三者協議会などの開かれた学校づくり、改訂学習指導要領の押しつけを許さない自前の教育課程づくり、学年だよりを教育対話のチャンスととらえた職場づくり、PTA役員や校長会との懇談のとりくみなど、攻撃を跳ね返す力強い参加と共同の学校づくりのとりくみが着実に前進していることが数多く発言されました。

国・公立高校で始まった授業料無償化の動きを、私学を含めて教育費全体の無償化を求める運動として広げようと力強く語られました。また、自己責任論にたつ教育から、社会的責任による教育への転換を強めるとりくみの大切さが話し合われました。教育費問題を自らの課題としてとりくむ高校生の姿が政治を動かしている事実も示されました。

教育費無償化への動きが、管理と競争の教育そのものを問い直して、高校教育の課題も明らかにされました。

民主党の教育政策が前進面と同時に、危険性やあいまいさを持っていることもしっかり見据え、運動と世論の力で前進させることの大切さが指摘され、共同のとりくみをいっそう前進させることを確認しあいました。

4. 教職員の生活と権利を守る上でも、深刻な不況を打開する上でも、すべての労働者の賃上げや働くルールを確立させる国民春闘がいよいよ大切です。またCEART第10回会議が、「教員の地位勧告」にもとづく教員政策の実現のための具体的な手立てを勧告し、日本政府が動きはじめたことは重要です。

討論では、長時間過密労働を是正する裁判や労安のとりくみ、県教委との協議の具体的な前進が出されるとともに、いのちと健康を守るとりくみの重要性が語られました。ルールなき働き方が臨時教職員をいっそう劣悪な状態に追い込んでいる実態とともに、雇用と賃金、権利の改善に向けたとりくみが出されました。

教職員の賃金が、教え子の生活や地域経済にもつながっている事実が語られました。すべての労働者の雇用や賃金改善と一体に職場からの国民春闘を大きくすすみましょう。

5. 強く大きい全教をつくるために、職場からすべての組合員が参加する全教運動をつくることの大切さが語りあわれました。

討論では、乱暴な攻撃に負けず子どもと教育を守る東京でのとりくみ、特別休暇改悪攻撃をはねかえした大阪でのとりくみをはじめ、職場からのたたかいの中で職場づくりと組合員拡大が大きく前進している様子が語られました。また専門部のつながりと少数職種を大切に職場づくりの中で組織拡大がすすんでいる様子も語られました。

青年が実行委員会をつくって主体的に企画、運営、参加するとりくみとして大成功したTANE!のとりくみ、障害児学級・学校学習交流集会など学ぶ・つながるとりくみの中で青年が青年を組織し始めた様子、青年が学校づくりや教職員組合運動の担い手として動き始めている姿が、参加者に大きな励ましを与えました。

2011年3月の全教20周年を、最大の組織で迎えるために全力をあげようではありませんか。

私たち全教は、子どもと教育を守るため、貧困と格差をなくす国民的な共同を広げます。教育政策を転換させ、すべての子どもたちを大切にする教育と、国民が主人公の社会をつくるために、憲法を高く掲げ、一つひとつの職場から父母・国民とともに全力でたたかいます。

以上、宣言します。

2010年2月14日

全日本教職員組合第27回定期大会